

授業科目(ナンバリング)	保健医療サービス論 (DB301) (実践的教育科目)			担当教員	坂本 雅俊 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講義における授業のねらいは、医療機関におけるMSWの業務について体系的に知り、医療福祉学の基礎を修得することである。MSWの役割と機能と責務、チーム医療の実務について正確な知識を獲得できる。また、患者の尊厳を護るための視点を養うこと、患者の療養生活におけるニーズに対して、社会福祉の視点から援助するための「知識と技術と職業倫理」について知ることができる。狙いを実現するために、テキストを十分に読むことと、小テストを課す。介護福祉士や精神保健福祉士を目指す学生にとっても、医療機関との連携を行うために必要な「医療福祉の生成史、発達史、相談援助の範囲と職業倫理、方法論」を知ることができる。将来、MSWを目指す学生にとっての職業選択に役立てることができる。							①②⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	医療福祉学の生成・発達史や保健医療福祉制度についての知識を持ち、説明できる。				定期試験	90%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	保健・医療・福祉の制度を活用して、患者の療養生活相談の事例検討のワーキングに取り組める。そして、MSWの業務と医療福祉学の本質を理解できる。				ワークカード	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
予習として事前に指示したテキストの頁を読み、受講後に復習を行う。講義のなかで学修確認のための「ワークカード」を課し、数名分のワークカード内容を紹介し学生の共有知識とする授業内フィードバックで10点の評価を行う。定期試験は90点満点で評価する。講義ノートを作成することを勧めます、ノートの内容は、「授業中の話のメモ、マナビに掲げたパワーポイントの内容の写し、及び自習内容等」を記すこと。							
授業の概要							
この授業は、医療現場で医療ソーシャルワークの経験をもつ教員が行う。講義の進め方はテキストを軸として行う。また、MSW史として昭和の歩み等について経験を交えて学修できる。授業で用いた資料はポートフォリオのコンテンツに掲載する。講義の中で、ワークカードを用いて話し合う機会を設けるので理解を深めること。また、講義内容の講話を学生はノートに記録すること。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書： 中島裕他 編著「保健医療サービス」(2017) ミネルヴァ書房 教科書： 社会福祉士養成講座編集委員会編「新社会福祉士養成講座第17巻 保健医療サービス」中央法規出版 参考書： 医療ソーシャルワーク 中島さつき 誠信書房 指定図書： 医療ソーシャルワーカー論 児島美都子 ミネルヴァ書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
テキストを事前に読み予習を行うこと。復習時は講義内容について自ら調べなおし、ポイントを整理して理解を深めること。紹介した文献を図書館へ通い、読んでおくこと。そのためにも、板書や講義ではノートを取り整理しておくこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	医療保障とは何か	保健医療サービスの構成要素、対応課題について理解できる。	配布資料を読む。復習は資料から医療費財源を理解する。
2	国民医療費	国民医療費の半里、状況について理解できる。	予:配布資料を読む。 復:医療保険制度を理解する。
3	病院の種類	地域医療支援病院などについて理解できる。	予:配布資料を読む。 復:相談面接の意義を理解する。
4	チーム連携と協働	経済、心理・社会的、受診・受療援助、退院・社会復帰、地域活動援助の業務について理解できる。	予:配布資料を読む。業務指針の「業務内容」を読む。 復:事例についてノートにまとめる。
5	患者の権利	専門職の基本姿勢として、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、コンプライアンスについて理解できる。	予:テキスト第 5 章を読む。 復:自己決定について整理して理解する。
6	業務指針と医療ソーシャルワークの定義	医療ソーシャルワークの業務指針と定義について理解できる。	予:テキスト第 6 章を読み予習する。復:業務指針と倫理綱領を理解する。
7	戦後の MSW 発展史	医療ソーシャルワーカーの歴史について理解できる。	予:テキスト第 7 章を読む。 復:MSW の発祥について図書館で調べる。
8	医療ソーシャルワークの倫理綱領	倫理綱領と価値について理解できる。	予:テキスト第 8 章を読む。 復:行動規範も合わせて理解する。
9	アメリカのMSWの歴史	キャボットの功績や 1900 年初頭の都市社会背景を踏まえて理解できる、また、国家試験問題にチャレンジする。	予:配布資料とテキスト第 9 章を読む。復:資料をノートにまとめること。
10	保健医療政策	特定機能病院などについて理解できる。	予:テキストを読む。復:SVを事例と共に理解する。
11	認定社会福祉士とスーパービジョン	認定医療社会福祉士の資格や役割について理解できる。	予:テキスト第 11 章を読む。 復:精神科領域について調べ理解すること。
12	医療連携チーム、精神障害者へのアプローチ	チーム医療、精神障害者医療における SW の役割について理解できる。	予:配布資料を読む。 復:精神障害について理解する。
13	医療ソーシャルワークの力動性	ダイナミズムについて知り、ネットワーキングの重要性を理解できる。電子カルテの紹介、国家試験問題を通して医療サービスの理解を広げることができる。	予:テキストを通読する。復:全体を総括して調べ理解する。
14	外国人への医療支援	医療通訳派遣システムの構築、外国人の治療環境の連携について知る。	予:テキスト第 13 章を読む。 復:家庭復帰事例を理解する。 ノート提出予定
15	患者の権利と医療人	ヘルシンキ宣言、尊厳死、ヒポクラテスの誓い、ナイチンゲール誓詞、その他、全体をまとめる。	予:テキスト全体を読む。 復:医療の社会化について理解する。
16	定期試験		